

記入例

構造計算適合性判定申請書
(第一面)

建築基準法第6条の3第1項(同法第18条の2第4項の規定により読み替えて適用される場合を含む。)の規定による構造計算適合性判定を申請します。この申請書及び添付図書に記載の事項は、事実と相違ありません。

株式会社 都市居住評価センター

・(第二面)の【1.建築主】の氏名と整合してください。
・建築主が2名以上の場合は、別紙様式に記載。

令和 年 月 日

申請者氏名

〇〇エステート 株式会社
代表取締役社長 日本 太郎 印

設計者氏名

〇〇設計事務所 株式会社
東京 次郎 印

第二面【代表となる設計者】と整合させてください。

手数料請求先 会社名 代表者名 住所 所属/担当者名 電話/FAX番号		※手数料欄 令和 年 月 日 受領 金額 円
※受付欄	※決裁欄	※適合判定通知書番号欄
令和 年 月 日		令和 年 月 日
第UHEC 号		第UHEC 号
係員印		係員印

【1.建築主】

【イ.氏名のフリガナ】 ○○エステート カブシキカイシャ ダイヒョウトリシマリヤクシャチョウ ニッポン タロウ
【ロ.氏名】 ○○エステート 株式会社 代表取締役社長 日本 太郎
【ハ.郵便番号】 〒012-0123
【ニ.住所】 ○○県 ○○市 ◎◎丁目 ◎◎
【ホ.電話番号】 012-012-0123

建築主から委任を受けて申請業務を行う方を記載。

【2.代理人】

【イ.資格】 (一級) 建築士 (大臣) 登録第 AAAAAA 号
【ロ.氏名】 東京 太郎
【ハ.建築士事務所名】 (一級) 建築士事務所 (○○都(県)) 知事登録第 aaaaaa 号
○○設計事務所 株式会社
【ニ.郵便番号】 〒123-1234
【ホ.所在地】 ○○県 ○○市 ○○丁目 ○○
【ヘ.電話番号】 123-123-1234

【3.設計者】

(代表となる設計者)

【イ.資格】 (一級) 建築士 (大臣) 登録第 AAAAAA 号
【ロ.氏名】 東京 次郎
【ハ.建築士事務所名】 (一級) 建築士事務所 (○○都(県)) 知事登録第 aaaaaa 号
○○設計事務所 株式会社
【ニ.郵便番号】 〒123-1234
【ホ.所在地】 ○○県 ○○市 ○○丁目 ○○
【ヘ.電話番号】 123-123-1234
【ト.作成又は確認した設計図書】 すべての設計図書(構造図、構造計算書を除く)

記名押印した申請図書と整合

(その他の設計者)

【イ.資格】 (一級) 建築士 (大臣) 登録第 BBBBBB 号
【ロ.氏名】 東京 三郎
【ハ.建築士事務所名】 (一級) 建築士事務所 (○○都(県)) 知事登録第 bbbbbb 号
△△設計事務所 株式会社
【ニ.郵便番号】 〒234-2345
【ホ.所在地】 ○○県 ○○市 △△丁目 △△
【ヘ.電話番号】 234-234-2345
【ト.作成又は確認した設計図書】 意匠図

【イ.資格】 (一級) 建築士 (大臣) 登録第 CCCCCC 号
【ロ.氏名】 東京 四郎
【ハ.建築士事務所名】 (一級) 建築士事務所 (○○都(県)) 知事登録第 ccccc 号
◇◇設計事務所 株式会社
【ニ.郵便番号】 〒345-3456
【ホ.所在地】 ○○県 ○○市 ◇◇丁目 ◇◇
【ヘ.電話番号】 345-345-3456
【ト.作成又は確認した設計図書】 構造図

設備図を作成または確認した設計者は記載不要です。

【イ.資格】 () 建築士 () 登録第 号
【ロ.氏名】
【ハ.建築士事務所名】 () 建築士事務所 () 知事登録第 号
【ニ.郵便番号】
【ホ.所在地】
【ヘ.電話番号】
【ト.作成又は確認した設計図書】

(構造設計一級建築士である旨の表示をした者)

上記の設計者のうち、

建築士法第20条の2第1項の表示をした者

【イ.氏名】

【ロ.資格】 構造設計一級建築士交付第

建築士法第20条の2第3項の表示をした者

【イ.氏名】

【ロ.資格】 構造設計一級建築士交付第

20条の2第1項:

構造設計一級建築士が自ら設計した場合に記載する。

20条の2第3項:

構造設計一級建築士が法適合確認した場合に記載する。

【4.敷地の位置】

【イ.地名地番】

【ロ.住居表示】

印共通事項:

・印:該当外

・印:該当項目

・地名地番は、**都(県)**から正しく記載する。
(確認申請書と整合してください)
・住居表示は未定の場合は、**空欄又は未定**とする。

【5.確認の申請】

申請済 (

未申請 (

・指定確認検査機関名
その事務所の住所を都
市区市町村まで記載。

【6.工事種別】

新築

増築

改築

移転

大規模の修繕

大規模の模様替え

・都県又は市町村に申請の場合
はその名称のみを記載する。

【7.備考】

(仮称)虎ノ門計画

・建築物の名称又は工事名
を記載する。

建築物独立部分別概要

【1.番号】	1-1(A棟)	・第三面は棟ごとに作成 ・設計図書(意匠図、構造図書)に表示された棟名称を記載。
【2.延べ面積】	2000.00 m ²	
【3.建築物の高さ等】		
【イ.最高の高さ】	〇〇.〇〇〇 m	
【ロ.最高の軒の高さ】	△△.△△△ m	
【ハ.階数】	地上 (◇◇) 地下 (-)	
【ニ.構造】	鉄筋コンクリート 造 一部 造	
【4.特定構造計算基準又は特定増改築構造計算基準の別】	<input type="checkbox"/> 特定構造計算基準 <input type="checkbox"/> 特定増改築構造計算基準	・特定構造計算基準 → 特定増改築構造計算基準以外の場合 ・特定増改築構造計算基準 → 既存不適格建築物への増築の場合
【5.構造計算の区分】	<input type="checkbox"/> 建築基準法施行令第81条第2項第1号イに掲げる構造計算 <input type="checkbox"/> 建築基準法施行令第81条第2項第1号ロに掲げる構造計算 <input type="checkbox"/> 建築基準法施行令第81条第2項第2号イに掲げる構造計算 <input type="checkbox"/> 建築基準法施行令第81条第3項に掲げる構造計算	⇒ ルート3 ⇒ 限界耐力等 ⇒ ルート2 ⇒ ルート1
【6.構造計算に用いたプログラム】		
【イ.名称】	〇〇 〇〇 Ver.x.x.x	
【ロ.区分】	<input type="checkbox"/> 建築基準法第20条第1項第2号イ又は第3号イの認定 (大臣認定番号) <input type="checkbox"/> その他のプログラム	特定増改築構造計算基準適用の場合に記載 ・第一号イ: 構造上一体増築 ・第一号ロ: Exp, J増築 ・第二号イ: 延べ面積1/2以下増築 ・第三号イ: 延べ面積1/20以下かつ50m ² 以下増築
【7.建築基準法施行令第81条第2項第1号イに掲げる構造計算に定める基準の区分】	()	
【8.備考】	(計画変更の概要) 外装変更に伴う固定荷重増と各部材変更	<計画変更の場合> 第一面の【計画変更の概要】の記載。

計画変更構造計算適合性判定申請書
(第一面)

記入例

建築基準法第6条の3第1項(同法第18条の2第4項の規定により読み替えて適用される場合を含む。)の規定による計画の変更の構造計算適合性判定を申請します。この申請書及び添付図書に記載の事項は、事実と相違ありません。

株式会社 都市居住評価センター

(第二面)の【1.建築主】の氏名と整合させてください。
建築主が2名以上の場合は別紙様式に記入。

令和 年 月 日

申請者氏名

〇〇エステート 株式会社
代表取締役社長 日本 太郎 印

設計者氏名

〇〇設計事務所 株式会社
東京 次郎 印

第二面【代表となる設計者】と整合してください。

【計画を変更する建築物の直前の構造計算適合性判定】

【適合判定通知書番号】 第 号
【適合判定通知書交付年月日】 平成 年 月
【適合判定通知書交付者】
【計画変更の概要】

⇒元号:プルダウンで選択可
⇒交付者:プルダウンで選択可。
⇒計画変更内容を簡潔に記載する。

手数料請求先 会社名 代表者名 住所 所属/担当者名 電話/FAX番号		※手数料欄 令和 年 月 日 受領 金額 円
※受付欄	※決裁欄	※適合判定通知書番号欄
令和 年 月 日		令和 年 月 日
第UHEC 号		第UHEC 号
係員印		係員印

(注意)

- ① 申請者の氏名の記載を自署で行う場合においては、押印を省略することができます。
- ② 数字は算用数字を用いてください。
- ③ ※印のある欄は記入しないでください。

(注意)

1. 各面共通関係

数字は算用数字を、単位はメートル法を用いてください。

2. 第一面関係

- ① 申請者の氏名の記載を自署で行う場合においては、押印を省略することができます。
- ② ※印のある欄は記入しないでください。

3. 第二面関係

- ① 建築主が2以上のときは、1欄は代表となる建築主について記入し、別紙に他の建築主についてそれぞれ必要な事項を記入して添えてください。
- ② 建築主からの委任を受けて申請を行う者がいる場合においては、2欄に記入してください。
- ③ 2欄及び3欄は、代理者又は設計者が建築士事務所に属しているときは、その名称を書き、建築士事務所には属していないときは、所在地はそれぞれ代理者又は設計者の住所を書いてください。
- ④ 3欄の「ト」は、作成した又は建築士法第20条の2第3項の表示をした図書について記入してください。
- ⑤ 3欄は、代表となる設計者及び申請に係る建築物に係る他の全ての設計者について記入してください。3欄の設計者のうち、構造設計一級建築士である旨の表示をした者がいる場合は、該当するチェックボックスに「レ」マークを入れてください。記入欄が不足する場合には、別紙に必要な事項を記入して添えてください。
- ⑥ 住居表示が定まっているときは、4欄の「ロ」に記入してください。
- ⑦ 5欄は、該当するチェックボックスに「レ」マークを入れ、申請済の場合には、申請をした市町村若しくは都道府県名又は指定確認検査機関の名称及び事務所の所在地を記入して下さい。未申請の場合には、申請する予定の市町村若しくは都道府県名又は指定確認検査機関の名称及び事務所の所在地を記入し、申請した後に、遅滞なく、申請した旨(申請先を変更した場合においては、申請した市町村若しくは都道府県名又は指定確認検査機関の名称及び事務所の所在地を含む。)を届け出て下さい。なお、所在地については、〇〇県〇〇市、郡〇〇町、村、程度で結構です。
- ⑧ 6欄は、該当するチェックボックスに「レ」マークを入れてください。
- ⑨ 建築物の名称又は工事名が定まっているときは、7欄に記入してください。

4. 第三面関係

- ① この書類は、申請に係る建築物(建築物の二以上の部分がエキスパンションジョイントその他の相互に応力を伝えない構造方法のみで接している場合においては当該建築物の部分。以下同じ。)ごとに作成して下さい。
- ② 1欄は、建築物の数が1のときは「1」と記入し、建築物が2以上のときは、申請建築物ごとに通し番号を付し、その番号を記入して下さい。
- ③ 2欄及び3欄の「イ」から「ハ」までは、申請に係る建築物について、それぞれ記入して下さい。
- ④ 3欄の「ニ」は、申請に係る建築物の主たる構造について、記入して下さい。
- ⑤ 4欄、5欄及び6欄は、該当するチェックボックスに「レ」マークを入れてください。
- ⑥ 6欄の「イ」は、構造計算に用いたプログラムが特定できるよう記載して下さい。
- ⑦ 7欄は、建築基準法施行令第137条の2各号に定める基準のうち、該当する基準の号の数字及び「イ」又は「ロ」の別を記入して下さい。
- ⑧ 計画の変更申請の際は、8欄に第三面に係る部分の変更概要について記入して下さい。